

キャサリン・ベル IFUW 新会長就任あいさつ

「成長とチャンスの期となる3年間を目指して」



初めに、イスタンブール総会を素晴らしい総会へと盛り上げて下さり、IFUWの将来に向けた重要な決定を下された皆様に、心から感謝いたします。総会では報告されませんでした、議論された2つの提案のうち、ジュネーブの機能的な専任事務局を存続させて、IFUWの成長を図るとする提案1が68%の支持を得て採択されました。その結果、定款の改訂案（任期を2期までとする点を除いて）と予算案も承認されたこととなります。事務局はプロジェクトや計画に向けて動きだしました。特に、会員増強、募金活動、プロジェクトに焦点を置き、組織拡大を目指して、予算には充分留意しつつ、行動していくことになります。

理事会の構成員は、副会長：Ayden Birerdinnc、Susan Russell、Jennifer Strauss、Margaret Tait、財務理事：Elsbeth Von Navariniと決まりました。IFUWの機構をより民主的なものにするを目指した提案1による定款の改訂によって、評議員会は廃止され、総会から次の総会までの間の投票は現在と同様に電子投票で行われます。従来と異なるのは、各NFAに会員数に応じた投票権が与えられ、各々が投票に当たる「代議員」を任命することが必要になることですが、定款に従ってNFA役員の改選時に、代議員を新たに任命し直すことが可能です。来年、会計監査に関する投票を行う際、この方法を試行してみたいと思います。

イスタンブール総会時に開いたCIRの昼食会でCIRフォーラムの発足が決まりました。このフォーラムが様々な意見やプロジェクト提案を交換し合い、さらには、最善の慣行やIFUW内部にある優れた専門知識や技能をNFAが共有・活用し合える仕組みになるのではないかと期待しています。そうした専門知識・技能は世界中の女性の中等、高等教育に役立つに違いないと思っています。CIRフォーラムの設置は、一人の会員からの提案によるものでした。今後もIFUWと会員を相互に近づけるのに役立つような積極的な提案をお寄せ下さるようお待ちしております。

挑戦課題が多く、エクサイティングでもあるこの時に、IFUWを導く機会を与えられたことに感謝し、来たる3年間を皆様にとって成長とチャンスの期と成すべく、理事会、スタッフ、委員会共々に今後臨む決意を固めております。

JAUW ワークショップ報告 国際委員長 旦 まゆみ

「さまざまな社会において女性が

リーダーシップを発揮している際立った事例から学ぶ」

日時：2013年8月19日(月) 14:00 - 15:45

場所：イスタンブール Kadir Has 大学 Fener 教室

全体の流れ：

- ・あいさつと進め方の説明:コーディネータ旦まゆみ(東京支部)
 - ・メキシコ総会から得られたこと: Dorothy Meyer (NZFGW)
 - ・ニュージーランドの女性研究者の事例紹介: Pushpa Wood (NZFGW)
 - ・日本のフェミニスト・カウンセラーの事例紹介: 廣田輝子(京都支部)
 - ・日本の農村女性起業家の事例紹介: 岡部佳世(東京支部)
 - ・配布したアンケートに、各自が考えるリーダーシップに必要な要素に印をつけてもらった
 - ・5～6人のグループに分かれて印をつけた点についてディスカッションした
 - ・グループごとに話し合った内容を発表した
 - ・スクリーンにアンケートの簡単な集計を映し出して共有した
 - ・リーダーシップに必要な要素をまとめ、女性のリーダーシップ研修を各NFAで考えるという提案をおこなった
- 前半の4人のプレゼンテーションはそれぞれ内容が豊富で、スライドや配布資料などを使ってリーダーシップについて考える前提が示された。後半のディスカッションは、各グループが活発に意見交換し、予定時間を延長してもらいたいと要望が出るほどであった。回収したアンケートの集計は、現場で入力作業をおこない、簡単なグラフにして映写したところ、参加者がとても興味を持って見ていた。このように、双方向のやりとりを交えたワークショップは、参加者も発表者も学ぶことが多く、有意義である。



ワークショップ会場にて